

## ②第1分科会

### 起業教育ワークショップ

「全国高等学校ビジネスアイデア甲子園」の活用

大阪商業大学 経済学部

准教授 柴田 孝

2025年度で24回目の開催となる全国高等学校ビジネスアイデア甲子園（以下、コンテストと呼ぶ）は、大阪商業大学が毎日新聞社との共催で開催しています。

コンテストは締切が夏季休暇明け（2025年度応募受付期間：8月25日（月）～9月18日（木））であるため、夏季休暇中の課題として



もご活用いただいているようです。しかしながら、取組を開始するにあたり、どのように生徒の皆さんをサポートしていくかお悩みの先生方もおられるであろうと考え、第1分科会は「全国高等学校ビジネスアイデア甲子園の活用」と題して、コンテストへの取り組みをお考えの高校の先生方を対象に、応募する際に参考となる情報をお伝えすることを主たる内容としています。

コンテストを運営していくにあたり、支援プログラムとして「活用ガイド」の作成・配布を行っております。活用ガイドには、コンテストの概要説明に加えて、ほんの一部ではありますがアイデアの発想法を紹介し、また印刷して使用できるミニワークシートも掲載しています。ほかにも応募案を作成するにあたり考えていくポイントについての解説を紹介しています。コンテスト応募用紙の外寸がA4サイズとなっており、アイデアの記入スペースはA4用紙より若干小さくなります。この限られたスペースにどう表現するか、イメージを掴む一助となればと考え過年度の入賞者の応募用紙の画像を解説とともに紹介しています。また、大阪商業大学・全国高等学校ビジネスアイデア甲子園ウェブサイト上に解説動画も掲載しています。

第1分科会では以上の情報を参加者の皆様にご紹介することから始め、それに続いて、コンテストは商品とサービス、どちらのアイデアも対象としていますが、商品とサービスの違いやサービスとはそもそもどういうものがあるかを考えてもらうために、2025年のいまとなっては当たり前存在に

なっている2つの商品(即席めん)・サービス(宅配便)を紹介しました。続いて活用ガイドの一部を用いて、自分の身の回りや、いろいろなヒトの状況を想定して、「不便・不十分・不満・不足」という語句を用いて「アイデアの種(応募案につながりそうな端緒)」を考えるアイデアの発想法も紹介しています。



。実在の商品を例に出して、それらが既存の他の製品と比べてどの部分について改善しているのかを説明しました。後半では、企画書の書き方について検討しました。応募者の考えていることが十分に伝わるように、実際には記入スペースが限られているので取捨選択は必要ですが、アイデアの全体像について、最初は書きすぎと思うくらいに丁寧に書いて後から分量を調整することがお勧めであることや、新しい商品・サービスを思いついたと本人は思っても意外に似た要素を持つものが世の中にたくさんあるので、既存のものとの応募作品との違い(差別化)を考えることが必要であることなどを共有しました。

起業教育研究会の午後に実施される第1分科会は、新たにコンテストに取り組もうとされている先生方を主たる対象としつつ、新しい素材や考え方・視点を盛り込み、実施しております。次年度も実施の予定ですので、コンテストに興味関心をお持ちの先生方にご参加いただければと考えています。